

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 3 日現在

機関番号：32408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520601

研究課題名(和文) 英語教員志望生の専門職能と自律的成長を育む省察的ポートフォリオの開発に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Reflective Portfolios to Enhance EFL Teacher Trainees' Professional Competence and Autonomy

研究代表者

小嶋 英夫 (KOJIMA, Hideo)

文教大学・教育学部・教授

研究者番号：30310981

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：教育学部在籍の英語教員志望生を主な研究対象として、彼らの専門職能と自律的成長を促す省察的ポートフォリオを開発するために、理論と実践の統合を通して継続的に研究した。文部科学省から「グローバル化に対応した英語教育改革」が提唱され、小・中・高を通じた一貫生のある新しい英語教育の推進に貢献できる英語教員の養成・研修が求められている。学習指導要領が全面的に改訂される2020年に向けて、学校教育全体が大きく見直され、すべてのキャリアステージにおける教師教育も改善されることになる。これらの動向を見据え、国内外の研究大会での発表、学術誌への投稿、図書の刊行等により、本研究の成果を結実させることができた。

研究成果の概要(英文)：Through the integration of theory and practice, I have developed reflective portfolios in order to enhance EFL teacher trainees' professional competence and autonomy. The Japanese government, which announced the English Education Reform Plan Corresponding to Globalization in 2013, expects EFL teachers to contribute to the promotion of a new coherent English teaching system throughout primary and secondary education. Towards 2020, when the new Course of Study will be established, teacher education programs will also be improved in light of each stage of teacher development. The present study has been carried out, taking into account this innovation in pre- and in-service teacher education in Japan. I have introduced my research results in a variety of conferences inside and outside Japan and publish papers and books on my research interests.

研究分野：人文学

キーワード：英語教員養成 専門職能 自律的成長 省察的ポートフォリオ

1. 研究開始当初の背景

(1) 教師教育のあり方が世界的に見直しされる中で、近年欧州評議会が公開した CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)、ELP (ヨーロッパ言語ポートフォリオ)、Profile (ヨーロッパ言語教師教育プロフィール) 及びこれらを源泉とした EPOSTL (言語教員養成課程履修生のためのヨーロッパポ - トフォリオ) が、日本においても紹介され始めた。編集に携わった Dr. David Newby (2011) によれば、こうした文書の導入の成否は、政策立案者、教師教育者、現職教員 (メンター役) 等がどの程度深く目的・理念を理解しているか、また各国の学習・教育文化の中でどのように文脈化できるかに関わっている。

(2) 我が国では、大学英語教育学会 (JACET) 教育問題研究会が、EPOSTL を翻案化して日本バージョンの J-POSTL の開発を試みている。しかし、日本の教育現場への文脈化はまだ未開拓であり、今後の実践的研究に期待される。欧米由来の学術を盲信することなくクリティカルに分析する立場から、本研究は J-POSTL を参考にしつつ、現場教育により効果的なポートフォリオの開発に貢献する。

(3) 本研究者は、これまで学内外で英語教員志望生・現職英語教員と接触しながら、自ら教師教育の省察的実践者・研究者 (Schön, 1983) として、学習者と共に学び成長し続ける英語教員を効果的に養成・教育するカリキュラム・プログラムの具体化・実践化を図ってきた。英語教員志望生のためには、協働的・自律的・省察的学びへのアプローチ (CARLA) や教育実習への同種のアプローチ (CARTA) を開発し、ラーニング/ティーチング・ポ - トフォリオの活用を含め、大学での授業や附属学校での教育実習でそれらの効果を検証し、研究成

果を国内外の研究大会と学会誌で発表してきた。こうした一連の研究は、いまだ未開拓と認識される。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、大学での教員養成教育改革の今後を見据えながら、日本人英語教員志望生の専門職能と自律的成長を育むツールとなる省察的ポ - トフォリオの開発について、理論的・実践的に研究することを目的とする。言語学習者用のポ - トフォリオ ELP 及び言語教員志望生のための EPOSTL の我が国の英語教員養成教育への文脈化を含め、時代の求めるポートフォリオの新たな可能性を、国内のみならず国際的な調査研究を踏まえて探求することがねらいである。

3. 研究の方法

(1) 日本の教員養成系大学・大学院における英語教員志望生、現職英語教員の教職専門性、教師オートノミーを育むポ - トフォリオの実践に関する情報収集・分析を行い、その有用性を究明する。

(2) CEFR、ELP、Profile、EPOSTL の実態調査・分析を踏まえ、またこれまで所属大学で行ってきた教員養成プログラムでの取り組みや J-POSTL の検証等に基づいて、今後日本の各教員養成機関で柔軟に応用できるポ - トフォリオを開発することを目指す。

(3) 学内の教員養成プログラム履修者、小・中・高現職英語教員の協力はもちろんのこと、日本教師教育学会、大学英語教育学会 (JACET) 自律学習研究会・言語教師認知研究会、全国語学教育学会 (JALT) 学習者成長研究会他の国際学会研究会のメンバーたちと協働する。

(4) 教師教育のための「活動理論」 (Activity

Theory) (Engeström, 1987) や「リアリスティック・アプローチ」(Korthagen, 2001) 等を参考に、教師教育における省察的アプローチの深化と互恵的・共同生成的成長に基づく日本人英語教員の専門的成長モデル構築の可能性を究明する。

(5) 教員の専門職能開発が世界的課題であることから、国内外の実践例に関する情報を収集・分析するとともに、本研究が国際的にも評価されるように配慮する。

4. 研究成果

(1) 大学教育学部での教員養成教育

英語教員志望生は、以下のように、省察的ポートフォリオを活用しながら専門的資質・能力やオートノミーを育んだ。

1) 英語科教育の専門科目で、CEFR、ELP、Profile、EPOSTL を紹介し、ポートフォリオの教育的理念、目的・目標、内容、構成について説き、学生・教員養成者間で討議し理解を深めた。

2) 各自がこれまで受けてきた小・中・高・大での英語授業を振り返り、それぞれの授業目的、授業スタイルを分析・省察し、その結果をグループ・全体で討議した。ポートフォリオに含まれる授業哲学の重要性を認識した。

3) 英語教師としてのキャリアステージに応じて、どのような教育・研修を受けることになるのか、どのような専門職能を身につけることを期待されているのかを踏まえ、J-POSTL を参考に、養成段階での自分のゴールを設定した。

4) 大学 3 年次に年間通じて実施される附属校での教育実習を本研究の主な実践の場とした。独自のポートフォリオを活用して、目標設定、計画、実践、観察、省察、新たな目標

設定というサイクルを繰り返しながら、一連の省察記録をファイル化した。特に、前期・後期の火曜日に行う Tuesday 実習では、実習生同士(2・3人)が協働でチーム・ティーチングを行い、生徒グループが協働で英語スキットや英語紙芝居を制作・上演するプロセスを支援した。実習生・生徒のいずれもが主体的・協働的な学びを継続し、お互いの課題解決を図るアクティブ・ラーニングを通して、互恵的に成長する姿が、ポートフォリオに映し出された。

(2) 現職教員教育

青森県、東北地方の現職英語教員の職能成長に関わる機会が多かった。代表例として大学院教育、教員免許状更新について述べる。

1) 大学院教育

本研究者は、大学院研究科の院生である小・中・高の現職英語教員を、2 年間にわたり継続的に指導する立場にあった。小学校英語の中核教員、スーパーグローバルハイスクールとして授業改善を図る教員、将来的に国際バカロレアプログラムの推進役となることを目指す教員たちに、最新の教育理論を提供した。本研究者独自のアプローチとして「協働的・省察的スーパービジョン」を開発し実践した。院生の自律的成長を支える独自の指導法として注目された。

2) 教員免許状の更新講習

本研究者は、中・高の英語教員を対象に、毎年教員免許状の更新講習を担当してきた。県内外から参加者が見られ、異なる学校教育現場を紹介・理解し合う場となった。世界的な視点から、言語教育の最新理論と実践の統合を心がけ、小・中・高を通じた一貫生のある英語教育のあり方を説いた。各校種間の連

携は必ずしもうまくいっておらず、課題が浮き彫りになった。優れた言語指導者の有する特徴について、あるいは欧州の複文化主義、複言語主義、ELPの日本への文脈化の可能性、さらには学習者オートノミーと教師オートノミーの重要性に関する認識等について、参加者が討議後に記述したデータを分析することも、本研究の一部となり、成果の発表にもつながった。

(3) 成果の発表

本研究者は、毎年全国・国際レベルの研究大会に参加して、研究成果を発表するとともに情報収集を図った。特に、大学英語教育学会自律学習研究会の代表として、国際大会でシンポジウムを主催し共同発表を行った。また、日本在住の外国人英語教員の多くが会員登録している全国語学教育学会の国際大会では、学習者成長研究会のメンバーとしてフォーラムで研究成果を発表し続けた。さらに、世界応用言語学会、IATEFLの学習者オートノミー研究会主催の国際学会に参加し、日本での研究成果を世界発信することができた。これにより、日本のみならず海外刊行による学術誌・著書にも論文が掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

- 1 Hideo Kojima, Enhancing EFL Teacher Trainees' Autonomous Development: A Sociocultural and Reflective Approach to Teaching Practice, JACET TOHOKU TEFL, 査読有、6、2016、1-12
- 2 Hideo Kojima, Ian Hurrell 他, Learner Development Across Borders, Proceedings of JALT 2014 International Conference,

査読有、2015、58-83

- 3 Hideo Kojima, Ian Hurrell 他, Transitions in the Lives of Learners and Teachers, Proceedings of JALT 2013 International Conference, 査読有、2014、48

- 4 小嶋英夫, 草薙優加他, 学習者オートノミーを育む大学英語授業の実践と省察, Proceedings of the JACET 51th International Conference, 査読有、2012、164-171

- 5 Hideo Kojima, Professional Consciousness-Raising in EFL Teacher Education: Good Language-Teaching Characteristics, Plurilingualism, and Autonomy, JACET TOHOKU TEFL, 査読有、4、1-12

〔学会発表〕(計18件)

- 1 Hideo Kojima, A Sociocultural and Reflective Approach to Enhancing EFL Teacher Trainees' Autonomous Development, 2016年3月、Antwerp

- 2 小嶋英夫, 教育実習における英語教員志望生の専門的成長 協働的な学びと実践を通して、JACET 東北支部例会、2015年11月、仙台

- 3 Hideo Kojima 他, Learners as Teachers: What Teachers Learn from Their Learners, JALT 2015 International Conference, 2015年11月、静岡

- 4 小嶋英夫, 教育実習における実習生と生徒の互恵的成長 アクティブ・ラーニングに基づく英語授業を通して、日本教師教育学会第25回研究大会、2015年9月、長野

- 5 小嶋英夫, 英語教育における学習者・教師の成長 協働・省察・自律、JACET 第54回国際大会、2015年8月、鹿児島

- 6 Hideo Kojima 他、Learner Development Across Borders、The 40th JALT International Conference、2014年11月、つくば
- 7 小嶋英夫、新しい教授法を实践・研究する高校英語教員の専門職能と教師オートノミーを育む大学院教育、2014年10月、仙台
- 8 小嶋英夫、言語教師の専門職能開発を促す CLIL 的アプローチと協働的・省察的スーパービジョン、第24回日本教師教育学会研究大会、2014年9月、東京
- 9 小嶋英夫、英語教育におけるオートノミーの育成を考える アドバイジングとマッピングに関する事例研究に基づいて、JACET 53 回国際大会、2014年8月、広島
- 10 Hideo Kojima、Developing EFL Learner and Teacher Autonomy: A Portfolio Program under Collaborative and Reflective Supervision、AILA 17th World Congress、2014年、8月、ブリスベン
- 11 Hideo Kojima、Hugh Nicoll 他、Collaborative Learning、JALT Learner Development SIG 20th Anniversary Conference、2013年11月、東京
- 12 小嶋英夫、小学校外国語活動を支える中核教員の専門職能と自律的成長を育む大学院教育、平成25年度日本教育大学協会研究集会、2013年10月、札幌
- 13 Hideo Kojima、Ian Hurrell 他、Transitions in the Lives of Learners and Teachers、The 39th JALT International Conference、2013年10月、神戸
- 14 小嶋英夫、宮原万寿子他、自律的英語学習者を支える足場かけ、第52回 JACET 国際大会、2013年9月、京都
- 15 Hideo Kojima、Collaborative and Reflective Advising for Teacher and Learner Autonomy、JACET 東北支部大会、2013年7月、仙台
- 16 Hideo Kojima、Hugh Nicoll 他、Defining Learner Development: Different Interests、The 38th JALT International Conference、2012年10月、浜松
- 17 小嶋英夫、宮原万寿子他、学習者オートノミーを育む大学授業の实践と省察、JACET 第22回年次大会、2012年8月、東京
- 18 小嶋英夫、草薙優加他、大学英語授業における自律学習の促進、JACET 東北支部大会、2012年7月、仙台
- 〔図書〕(計7件)
- 1 Hideo Kojima 他、Cambridge Scholars Publishing, Current Trends in Second/Foreign Language Teaching and Teacher Education: Research Perspectives、2015、360
- 2 Hideo Kojima、Tim Ashwell 他、JALT、Collaborative Learning in Learner Development、2014、314
- 3 Hideo Kojima、Alison Stewart 他、JALT、Learner Development Working Papers: Different Cases, Different Interests、2014、313
- 4 小嶋英夫、笹島茂他、開拓社、言語教師認知の動向、2014、213
- 5 Hideo Kojima、Menegale Marcela 他、IATEFL、Autonomy in Language Learning: Getting Learners Actively Involved、2013、232
- 6 Hideo Kojima、Jo Mynard 他、IATEFL、Autonomy in Language Learning: Advising in Action、2012、170
- 7 Hideo Kojima、Stacey Vye 他、Palgrave

Macmillan, Realizing Autonomy: Practice
and Reflection in Language Education
Contexts, 2012, 272

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小嶋英夫 (KOJIMA HIDEO)

文教大学・教育学部・教授

研究者番号 30310981